

第 1 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成29年8月22日

会議要録

平成 29 年度 第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	平成 29 年度 第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局 (担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 29 年 8 月 22 日 (火) 14:00~16:00	
開催場所	島田市役所 4 階第 3 委員会室	
議題	<p><協議事項> (1) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価、検証について ・平成 29 年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証</p> <p><報告事項> (2) 地方創生に係る交付金を活用した事業について ・ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト ・蓬萊橋周辺整備事業 (地方創生拠点整備交付金事業)</p> <p><意見交換> 島田市の人口動向等について</p>	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市自治会連合会 杉山副会長 ・島田青年会議所 齋藤筆頭副理事長 ・お母さん業界新聞 静岡版 杉本編集長 ・島田市小中学校 P T A 連絡協議会 良知会長 (欠席) ・N P O クロスメディア島田 大石理事長 ・島田商工会議所 岩原会頭 ・島田市商工会 大塚会長 ・島田観光協会 大久保会長 ・島田市農業経営振興会 仲田会長 ・静岡県立島田工業高等学校 松村校長 ・島田市校長会 服部・金谷小学校長 ・島田信用金庫 飯塚常務理事 ・島田・榛北地区労働者福祉協議会 白方事務局次長 (代理出席) ・島田公共職業安定所 鈴木所長 ・静岡県立大学 (学生) 大石百華 (経営情報学部 3 年) ・県立島田商業高等学校 (生徒) 田中彩音 (3 年) ・県立島田商業高等学校 (生徒) 酒井麻悠子 (3 年) ・島田市 染谷市長
	オブザーバー	静岡県中部支援局 後藤局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 田中課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・牛尾副市長 ・濱田教育長 ・鈴木市長戦略部長
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 ・(資料 1) 平成 29 年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案) ・(資料 2) 地方創生に係る交付金を活用した事業について ・(資料 3) 島田市の人口動向について ・(資料 4) 転入者・転出者アンケート結果について 	

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「平成 29 年度第 1 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。それでは、はじめに染谷絹代島田市長から、御挨拶申し上げます。染谷市長よろしく願いいたします。

○染谷市長 本日はご多用の中、平成 29 年度第 1 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。
今回、静岡県立大学の学生の皆様、県立島田商業高等学校の生徒の皆様をはじめ、新たに構成員となられました 6 名の皆様に御参画いただき、誠にありがとうございます。
さて、この市民会議は、地方創生に向けて官民が一体となり、島田市の特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するため、平成 27 年 5 月に設置し、同年 10 月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しております。
策定後は、2060 年の人口目標を 8 万人とした「人口ビジョン」及び 5 年間の主な施策等を定めた「総合戦略」を基に、地方創生に向け取組を本格的にスタートさせたところであります。
そして、昨年度からは、市民会議の皆様の御意見をいただきながら、総合戦略の評価、検証を行い、必要に応じて改訂するという一連のサイクル（PDCA サイクル）を実施しております。
本日の会議では、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた本市の昨年度の取組について、内部での評価、検証結果を御説明させていただきますので、それについての御意見を賜りたいと思います。
また、後半には、島田市の人口動向及び転入・転出者を対象に実施しましたアンケート結果等について、情報提供させていただきながら、構成員の皆様の情報交換の場とさせていただきたいと考えております。
本日は将来を担う若者の皆様にも御参画いただいておりますので、様々な観点からの御意見や御提言をいただき、有意義なものとなりますよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

○市長戦略部長 続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

(会議出席者自己紹介)

○市長戦略部長 ありがとうございました。なお、本会議には、オブザーバーとして静岡県中部支援局後藤局長にも御参画いただいております。後藤様からも一言御挨拶をいただきたいと思います。後藤様よろしく願いいたします。

○オブザーバー 日頃より、県政の推進につきまして御理解と御協力を賜り、お礼申し上げます。さて、中部支援局では、地方創生を推進するため、平成 27 年度に「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議 志太榛原・中東遠地域会議」を設置し、各界・各層の代表者の皆様の参画のもと、平成 27 年 10 月に、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生「長期人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。

今年度は、11 月に同地域会議を開催し、「総合戦略」の進捗状況評価と併せて具体的テーマに沿って、構成員の皆様方と意見交換を行いたいと考えております。そこで伺った御意見・御提案については、県の平成 30 年度の当初予算に反映することといたしております。

さて、我が国においては、本格的な人口減少時代に突入するとともに、東京への一極集中に歯止めがかかっていないという状況であります。

そのような中、地域の活力を高めるためには、若者を中心とした人が集まる地域づくりが重要となってくると考えております。

昨年度、県が実施した首都圏の若者に対する意識調査アンケートにおいて、リターンしたくない理由として、多い回答は、今の生活に不満がないこと、静岡に戻ってやってみたい仕事や勤め先がないこと、静岡では給与水準が高い仕事がないことなどが挙げられました。

こういったことから、各地域における「稼ぐ力の強化」、「交流人口の拡大」、「若者の移住・定住」の 3 つの課題の克服の必要があると考えています。

島田市では、国の地方創生にかかる交付金を活用して「ICTで人の流れを呼び込む 教育・産業づくり推進プロジェクト」及び「蓬萊橋周辺整備事業」を通じて魅力あるまちづくりを進めていただいております。

また、中部支援局では、昨年度から島田市を含む管内 4 市町と共同で、「新しい働き方」として注目されているテレワークの取組として「クラウドソーシングの普及」と「IT企業のサテライトオフィスの誘致」に取り組んでいるところであります。

引き続き、皆様方の御協力をお願いしたいと思います。本日は、よろしく申し上げます。

○市長戦略部長 ありがとうございます。それでは、早速、議事に入っていきたいと思えます。議長につきましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱第 3 条に基づき染谷市長をお願いしたいと思います。染谷市長、お願いいたします。

<議事（協議事項）（1）>

○染谷市長 依頼のあった議長を務めさせていただきます。

それでは、協議事項（1）「総合戦略の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料 1の説明

市が内部評価として行い、とりまとめた「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書（案）」について、説明した。

- ・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価・検証（P D C Aサイクル）の説明
- ・評価基準の説明
- ・内部評価結果に関する説明
- ・内部評価を踏まえた今後の取組、方向性

○染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

○A 構成員 5 ページの 3 エ「豊かな心を持った子供を育成する」の施策中、指標としている「学校が楽しい児童」の実績値が約 90%ある。将来的に考えると、今の子どもさんが島田市にずっと住んでくれるという可能性が秘められていると感じた。

○B 構成員 学校が楽しいかどうかは、教員にとって最大の関心事である。不登校、いじめ問題を解決していくこと、授業を充実させていくことにより学校が楽しい児童の数は上げることができると考えている。学校においても、P D C A サイクルにより、継続的に改善を図っている。

○染谷市長 島田市は不登校児童・生徒数は県に比べて少ないと思われまます。そのことについてB 構成員、いかがでしょうか。

○B 構成員 不登校児童・生徒については、ケース会議を開き、スクールソーシャルワーカーも参加し、対応している。また、島田市教育センターの協力のもと、保護者、児童・生徒に丁寧に対応していることが、高い数値に繋がっている。

○C 構成員 長野県の諏訪信用金庫様が、今年の5月から6月にかけて、10回に分けて計1,500人を、NHK大河ドラマで盛り上がっている浜松市にバス旅行を開催し、浜松からの帰路、本市の「ばらの丘公園」に寄り、大井川鐵道のSLに乗車していただいた。また、この間、諏訪信用金庫様は「おびサポ」の視察もしていった。その中で、諏訪の精密機械工業と島田市の産業のマッチングができないか、女性市長同士による交流ができないかなどのお話が出され、今回のことを契機に、観光振興や販路開拓に繋げていくことができないかとの思いがあり、そのあたりを膨らませていきたいと考えている。

○D 構成員 4 ページの 1 ウに「新たな付加価値による農林業で稼ぐ」こと、また、5 ページの 3 に「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする」ことについて記載がある。農業に限らないが、後継者不足、お嫁さん不足には、安心して子どもを育てられる環境が必要である。安心して農業に従事しながら、お嫁さんに来ていただき、さらに出産、子育てをできることが後継者には一番大事であることから、この2つは別々の問題ではなくリンクしている。

平成 31 年に「全国農業担い手サミット」が静岡で開催される。2,000 人から 2,500 人くらいの方が静岡に来ることになる。島田市として、是非、農業と観光を結びつけ、島田に来てくれた方がリピーターとなるよう島田の魅力

を構築していけるよう考えていただきたい。

- 染谷市長 4ページの1ーウと5ページの3がリンクしている御指摘は、そのとおりであり、島田市では子育てしながら働くことに対して応援すると宣言していることから、現在、保育所待機児童を来年春に「0」とするための施策を進めています。
- 放課後児童クラブについては、運営を支援してくれる方の人材不足の問題があり、施設を作るだけでは解決せず、保育所の待機児童解消のその先にあるものとして捉えています。「子どもを産むなら島田市」「子育てするなら島田市」と言ってもらえるまちにしていくことが大事であると考えています。
- 平成31年の「全国農業担い手サミット」に向けては、現在進めている蓬萊橋周辺の整備も整うことから様々な観光資源を活かせます。また、農業の新たな取組、西原、切山地区における新たな集積のモデル事業をお示しできる場所として、県とも連携して売り込んでいきたいと考えています。
- E 構成員 資料4の「市内総生産額」は、前年度実績との比較で45億円の減である。地方創生にかかる重要な部分として、働く場所の創出が重要であると思うが業種別の増減は把握しているか。
- 事務局 業種別の細かな金額の増減は、把握しておりませんが、どの業種が下がっているかについて説明させていただきます。平成28年12月に静岡県が公表している「平成26年度しずおかけんの地域経済計算」によると、大きく下がっているものは、第3次産業であり、そのうち卸売・小売業、不動産業の影響が大きくなっています。逆にサービス業については増加しております。
- E 構成員 茶業についてはどのようになっているか。
- 事務局 「茶業」という個々の事業での記載がないため分かりませんが、「農業」という業種では、ほぼ横ばい、若干増加しています。
- B 構成員 先ほど、市長から放課後児童クラブの件について話があった。子育てに関しても、ことば療法士を配置したり、教員OBが子育て応援課の相談業務を担当したり、相談に関して力を入れている。これは、評価の数値には出てこないが、人的配置により相談業務が充実してきている。
- 染谷市長 ありがとうございます。ご指摘いただいた点に加えて、スクールソーシャルワーカーについても、県内の他市町と比べると、かなり充実した体制をとっており、個々のケースごとに対応しています。今回の評価書の中には数値、文言として表されていないですが、これらのことを市内外に情報発信していくことが必要であると考えています。子育ての関係ですので、F構成員はいかがでしょう。
- F 構成員 子育ての評価は、下がっているものが多いが、実感としては、そんなにもマイナスのイメージは無い。マイナスの評価をプラスにするため何とかしよう

とする視点で見がちですが、子どもの学習と同じで、苦手な教科よりも得意な教科を伸ばし、全体的な学習意欲を上げるように、評価が高いところを伸ばしていくことが、「島田らしさ」に繋がるのではないかと。その島田らしさをみんなで認識することで、島田が盛り上がっていくと思う。

「子どもをまんなかに子育てする」というフレーズは、お母さん達の中に根付いている。どうしても目先の待機児童・学童の問題が目に行くが、学童に預けられないので、逆に地域の関わりで何とかそれを解決しようと、隣の「先輩お母さん」に預けることで地域と繋がり、新たに生まれるものもあると思う。

○G 構成員 5 ページ 3 アの指標である[婚姻率]について、基準値より 0.76 人下がったとのことであるが、人口 1,000 人当たりの結婚している人の数でしょうか。

○事務局 婚姻率とは、該当年に一定人口に対し、婚姻した値を示すものです。今回の場合、基準値と比較し平成 28 年度は、人口 1,000 人当たりの婚姻数（届出件数）が 0.76 人減少したことを示しています。

○H 構成員 5 ページの 4 ウ、コミュニティバス利用件数の指標について 122,000 人の減少であるが、原因は何か。

○事務局 17 ページに事業担当課による取組内容等を記載してありますが、平成 27 年度にバス路線の見直しを行い、平成 28 年度から新たなダイヤによる運行を開始してあります。見直しの中で、運行本数の減、時刻の変更等を行っていますので、これらの理由から利用者数が大幅に減少したと考えております。

○染谷市長 コミュニティバスについて、様々なご意見、ご要望をいただいております。コミュニティバスの運行については、県から補助金を頂いておりますが、金額は県下で 1 番多い状況であり、充実度は県内トップクラスであると考えております。しかしながら、便数が少ない、路線が少ない、使い勝手が悪いといわれている中、コミュニティバスに全てを求めることには限界があるとも考えています。公共交通機関としての役割のほか、福祉の役割も担わせるのか、また、高齢者の足に特化するならば他の方法も考えていく必要があると考えております。

○染谷市長 ほかに御意見はございますか。

○染谷市長 ありがとうございます。
行政による内部評価結果について、修正、見直し等の御意見はありませんでしたので、今回、御説明させていただいた評価書（案）については、この形で作成するものとし、総合戦略本体の目標値、取組内容等についても修正、改訂等も行わず、今後も引き続き、総合戦略に掲げられた目標値達成に向け各取組を推進していくこととします。
今回、委員の皆様からいただきました多くの御意見につきましては、取りまとめた上で、今回の評価・検証結果とともに報告書として作成し、市議会へ報告させていただきます。

また、庁内での情報共有を図り、今後の事業及び次年度の予算編成等に活かしていき、この総合戦略の評価・検証作業を実効性のあるものとしていきたいと思えます。

○染谷市長 続きます、「(2) 報告事項 地方創生に係る交付金を活用した事業について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料2の説明
・ ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクトについて
・ 蓬莱橋周辺整備事業について

○染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

○D 構成員 3 ページの蓬莱橋周辺整備について、今回整備を予定している逆側の右岸整備について、どのようになっているのでしょうか。

○副市長 現在のところ、具体的な計画はありません。当面、左岸側の整備を進めていきます。ただし、右岸側についても、現在、民間の皆様が様々な取組を行っていただいていますので、それらの動向も見ながら今後、検討していきたいと考えています。

○染谷市長 蓬莱橋右岸側の整備については、博物館前の整備と併せて、ミズベリング協議会の中で中長期的な計画として検討していきたいと考えています。

○D 構成員 蓬莱橋周辺整備事業の中で、観光物産販売コーナーを設けるといことありますが、品物を出したいとか、利用したい方への周知については、どのようにしていくのでしょうか。

○副市長 島田をいかにして市内外に売っていくかという点において、重要な場所であり、現在、ミズベリング協議会で検討しているところです。この取組に参画していただけるメンバーも慎重に選定していかねばと考えています。周知については、手順を追って公表し、募集をしていくことになると思いますが、詳細は今後検討していくこととなります。

○染谷市長 ほかに質疑、御意見等がありますか。

○染谷市長 ありがとうございます。
続きます、4 の「意見交換」に移りますが、今回は、「島田市の人口動向等について」というテーマを設けさせていただきました。
はじめに、事務局から資料3「平成 28 年の島田市の人口動向について」及び、資料4「転入・転出者アンケート結果について」を御説明させていただきます。その後、皆様と意見交換をさせていただきたいと思えますが、報告に対する感想、御提案等、自由な意見交換の時間としますので、積極的なご発言をお願い致します。
それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

- 事務局 資料3の説明 島田市人口動向について
資料4の説明 転入者・転出者アンケート結果について
- 染谷市長 それでは、ここからは、意見交換の時間としたいと思います。
今の説明に対する御意見、御感想及び御提案等、なんでも構いませんので、自由に御発言ください。
- I 構成員 人口が減っている中、世帯数が増えているのはどのような理由でしょうか。
- 事務局 細かく調査をしていませんので、明確な理由は分かりませんが、二世帯、三世帯同居であっても、世帯を別として市に届出をする「世帯分離」が増えていることが一つの要因であることが推測されます。
- I 構成員 今後、一人暮らしや空き家が増えることが予想される。総合戦略の基本目標3「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする」に関する施策については、婚姻率が下がっている等、評価が低い項目が多いが、この分野や長期的な視点で考えたとき、非常に重要である。また、核家族とならないような仕組みづくりも必要ではないか。そのためには、時間をかけて時代を担う子どもたちの教育を充実させていくことが必要であると思う。
- 事務局 世帯が増えることについては、決して悪いことばかりでなく良いこともあると思っています。子どもが複数いる場合に、実家の近くに住んでいることは想像できます。両親と一緒に住むことは難しいが、近くに住むことで親の面倒を見ていこうとする若者が増えてくれるのならば、島田の将来は、それほど暗くないのではないかと、また、そのような若者が住んでもらえるまちにしていきたいと考えています。
- I 構成員 世帯が増え、人口の増加にも繋がっていると思うが、初倉において一戸建ての分譲が増えている。分譲するためのノウハウ、例えば行政として支援してもいいのではないかとと思う。
- E 構成員 資料4、「転入・転出の理由」として「より良い周辺環境を求めて」の項目や、「住む場所を決める際に考慮した居住環境」として「自然環境は豊か」「生まれた土地、以前住んでいた」の項目が、転出者より転入者の方が多くなっている。そのことから、島田市は住みやすく、自然が活かされている場所であると思う。
転入・転出の理由として一番多いものは、「就職・転職」であり、勤める場所の確保が大事である。その中で、新東名金谷島田IC周辺の開発に期待をかけている。
アンケート結果では、一人世帯で転入される方は238人、転出される方は169人である。一人世帯の移動が多く、その方たちを島田市に定住してもらう、結婚してもらうことが重要であると思っている。そのために仕事場のある島田市がポイントとなるため、会議所としても支援をしていくことが必要だと感じている。

- C 構成員 結婚によりアパートに入居する人が多いが、子育てしながら一戸建てに引越す場合に島田が選ばれることが重要ではないか。そういった方が引越す先を選ばれる基準には、地価が安いことが挙げられる。また、この年代は大学から就職で戻ってくる方が多いなど、各層において、理由を深掘すれば戦略が立てやすくなるのではないか。
- 事務局 クロス集計を行う等、アンケートの集計についてももう少し深掘してみたいと考えています。また、アンケートはすべての方から回答を得ているわけではないため、一人で越してきた方からのアンケート回答率が高い等の状況も考えられることをお伝えしておきます。
- 副市長 世帯が増えていることについて、介護の関係で特別養護老人ホームに入居すると世帯分離が必要となります。このため、世帯の数と物理的に住宅を建てていることは違うため、分析が難しい面もあります。
- 染谷市長 特別養護老人ホームの入居による世帯数の増加と同様に、現在の社会保障制度の中では、世帯を別々とする事で、受けられる制度もあることから、実体は一つ屋根の下に一緒に住んでいる場合でも高齢者世帯と別々にすることを選択する方もいます。
- J 構成員 授業の一環で、県内から県外に就職した学生に、就職はどこにしたいかを聞いたアンケートを実施したことがある。場所も大切だが、仕事内容で選ぶ学生が多かった。アンケートでも、転入の理由で「就職・転職」が多いことは、島田市では選ばれる仕事が島田市では多くあるといえる。加えて子どもが産まれてから地元に戻ってきたいですかとの設問では、多くの学生が親と協力しながら子育てしたい、共働きで生活して行きたいが多い。島田市は、子育て世代を応援している市と聞いたため、より充実させれば人が集まると思う。
- 染谷市長 子育て世代にターゲットをあてて、「子育てするなら島田」と選ばれるまちにしていきたいと考えています。同一生計であれば、上の子が何歳でも第二子は半額、三人目以降は無償化とする施策、中学生以下の子どもを持つ父母で、市内金融機関の融資を受けて市内の中古住宅を購入する方に対し、最高200万円の奨励金を交付、静岡県外から島田市に定住するために転入し住宅を取得された方に対し、最高120万円の奨励金を交付などの取組に、島田の教育を組み合わせるパッケージとして、島田市がいかに暮らしやすく、子どもを育てる環境に適しているかというところを市内外に周知をしていきたいと考えています。
- F 構成員 夫の収入が減っていることもあり、共働きが必要となっていることを身近に感じている。子育てに密着している時間が長ければ長いほど、社会に取り残されていると感じる方が多い。そして、職場に復帰することにより、ママ友が減ってしまう。
会社に行くだけが働き方ではなく、会社に行かない働き方としてクラウドソーシングに興味があるママさんは多い。

子育てに地域で関わっていくという土壌が、島田市にはあると思う。
5月に始めた中溝町駄菓子コミュニティ「なかみぞさんち」に私も関わらせていただいている。そこでは、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども、お母さん達の互いの繋がりがうまれた。基本的に誰もが繋がりたいと思っている。子育て中には繋がることのできる環境、チャンスが多くあるので、それを逃さず生かしていきたい。そうした小さな積み重ねにより、地域の繋がりができることで、アンケートの「住む場所を決める際に考慮した住環境」として「生まれた土地、以前住んでいた」の項目を選ぶ方が増えていくと思う。

○K 構成員 先ほど、中部支援局長の話の中で、首都圏の若者に対する意識調査アンケートにおいてUターンしたくない理由として、「やってみたい仕事や勤め先がない」ことが挙げられていたが、やりたい仕事があれば、ここでやりたいことを起業することができる土壌・環境づくりが必要だと思う。また、市長の話の中でも、パッケージとして進めていくとありましたが、仕事、家庭、学校のどれか一つを支援していくのではなく、全体をパッケージとして考え、島田市を選ばれていくまちにしていくことが必要だと思う。そのうえでターゲットを絞って、ターゲットに即したパッケージを作っていくことが必要だと思う。

○L 構成員 市内公立高校は、島田高校5クラス、島田商業5クラス、島田工業6クラスであり、平成20年の第二期の再編整備計画での標準学級数は7から8であり、現状、大きく下回っている。島田市の公立高校は、藤枝、焼津、静岡のような合併はなかったが、高校進学時点で市外に流れる生徒が多いのが残念。例えば、小学校中学校の習慣から、朝読書ができていたりなど、地域の努力で育った島田の子どもたちが、市内の高校に進学するような流れになるといいと思う。ハード面では市外の高校にかなわない部分もあるが、ソフト面では全く変わらない。地元の学校であれば、学習と部活動の両立ができるといった点も含めて、地元には応援をお願いしたいと思う。そうしなければ、第三次の再編整備計画に入ってしまうかもしれないことを危惧している。地元の子どもは、高校まで地元で育ててあげたいと考えている。

○染谷市長 島田市は、公立4校、私立1校の計5校あり、島田市内の高校卒業生の地元就職率は県内トップクラスとなっています。このことは地元愛が強いともいえるかと思えます。

○B 構成員 資料4、転入者に対する15ページ問9の6「住む場所を決める際に考慮した居住環境として、大きなものはなんですか」の設問において、「教育・保育サービスの充実度」「医療・福祉サービスの充実度」「転入者への助成制度」「近助つきあい、地域活動の活発さ」が低くなっている。
満屋副市長の就任挨拶の中で「何よりも人の優しさ親切心を感じている、家族も安心したのでは」というコメントを、島田市の住民の一人として、とてもうれしく見させていただいた。
17ページ問11の転出者に対して設問で、「将来、島田市に戻ってきたいですか」について、「はい」と答えた方は133人となっている。島田市に入っ

てくる前は分からない、住んでみると分かることがあり、そのことを発信することが大事ではないか。

- 染谷市長 30歳の同窓会等を実施しながら、いかに島田市の環境が良いか、島田市がどういうことに力を入れ若い方たちが転入してくれてきているのかといったことを多くの人に知ってもらうため、もっと発信力を高めて行きたいと考えています。
- M構成員 人口動向の説明の中で18歳から22歳において転出超過である話がありました。自分には姉が二人おり、二人とも藤枝市に勤めており、年の近い姉は藤枝市に転出しました。
島田市では「ICTで人の流れを呼び込む 教育・産業づくり推進プロジェクト」の中で「Pepper で学ぶプログラミング体験講座」を実施しています。私も中学生の講座に高校生アシスタントとして参加しました。中学生は興味をもって講座を受けていました。そういった子たちがITに興味をもち就職できる場所が島田市にあれば、高校まで勉強した後に市内で就職してくれるのではと思いました。
- 染谷市長 島田では全国から応募者多数のICTの先端企業がありますので是非知ってもらいたいと思います。
- O構成員 島田商業高校と、島田工業高校と色々なことに取り組んでおり、会社にも見えていただいている。島田にICT企業があることをできるだけ知っていただくことが役目でもある。Pepper は導入の一端であり、興味がある方はもっと高いレベルに指導していきたい。また、高校生の皆さんにもっと知ってもらう努力も必要だとも感じる。高校生の皆さんが一旦進学で県外に出ても、再び島田に戻ることができる土壌を作る中で、さらに魅力ある企業にしていきたい。
- N構成員 授業の一環で人口増減について調べた時、人口の増加が著しい県は沖縄県であることが分かった。その理由の1つ目は子育てのしやすさ、2つ目は沖縄県で観光に来てそのまま定住した方がいることであった。島田市にも通じるものがあると思う。子育てが充実しており、観光資源も多くあります。観光ツアー、バスツアーを開催し、島田市を知ってもらうことが大切であると思う。
- 染谷市長 ありがとうございます。
まだまだ、御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりましたので、本日はここで終了したいと思います。
皆様からいただいた御意見の中で、すぐに事業に活かすことができる内容については、各担当課へ伝え、検討させていただきます。
それ以外の意見についても、庁内で情報を共有し、今後の事業に活かしていきたいと思います。
皆様のご協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長 ありがとうございます。

最後に、次回、市民会議の予定ですが、本日の次第、「その他」欄にも書いてありますが、3月22日（木）午前10時から、この会場での開催を予定しております。

委員の皆様には、近くなりましたら、改めて御連絡をさせていただきます。それでは、以上をもちまして「平成29年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

以上